

広報



しゅうら



1,200年の伝統

相内の虫送り

おどり出た荒馬と太刀振り

農繁期も終ってほっとひと息。今年も去る五日相内の虫送りがぎやかに行われました。笛や太鼓に合せて「荒馬」や「太刀振り」が踊り出てまつり気分を盛り上げました。

相内の虫送りは、津軽地方の虫送りの原型といわれ、約二百年前の平安朝時代山王坊で「虫切り」という行事として行われたのがはじまり。(村史資料編による)それだけに主催団体の郷土芸能保存会と青年団では「虫作り」と「おどりの練習に力を入れ、今年も小・中学生をまじえた約百人が勢ぞろい。二年続きの冷害をふつとばそうと、意気さかんなところを見せました。

また民俗芸能としても県内外から高く評価されているだけに、アマカマランや観光客も押しかけ、にぎわいは一日中続きました。

虫送りが終り、運動会が終ると夏は一足飛びにやってきました。



昭和57年

6月号

塩分を減らして高血圧をなくそう

健康管理に有意義な一日

健康まつり

心ゆらして歩もう、健康への道」をテーマに、「村民健康まつり」が十九日午前十時から基幹集落センターを第一会場に、相内小学校を第二会場にして開かれ約二百人の村民が食生活改善、健康管理のためのアドバイスを受けるなど有意義な一日を過ごした。

これまでの「健康会議」を「健康まつり」に名称を変えてから二年目ですが、第一会場の八つのコーナーは押すな押すな盛況ぶりでした。



第二会場の相内小講堂には、たくさんの村民が集まり、村田さんの講演に耳を傾けていました。

まず、減塩食試食コーナーでは、栄養教室修了生と衛生協力員が作った減塩食は文字どおり塩分を少なくしたもので①揚げ魚のタルタルソース

あえ、②にらのおひたし、③新キヤベツとわかめのレモンしょうゆ等の献立が目玉をひきました。特に③におひたしは普通のしょうゆでなく、

人気が集中した減塩食試食コーナー



し汁、みりん等で塩分にかわる味を加えて作った減塩食として人気がありました。

成人病予防コーナーはパネルの展示によって成人病を知ってもらおうと、シャウカステン（透過して見る）で病巣のサンプルを見るなど、目で



血圧計の正しい使い方指導
血圧自己管理コーナー

病気の恐ろしさを確認していました。また血圧自己管理コーナーは、いろいろな血圧計が出回ってはいるが、正しい使い方をしないと意味がないことを勉強していました。

「あなたにできる健康 村田さんが講演」

第二会場の相内小学校講堂では午後一時から、県公衆衛生課看護指導監・村田明子さんが「あなたにできる健康への道」と題して講演を行いました。

講師の村田さんは、①二十歳代から健康のために、二十歳にはまよわず検診を受ける

ことがたいせつ。高令化社会はもうすでに始まっている、②人体の機能は年令とともに加速的におとろえるが、六十



講演する村田さん

表彰

「健康まつり」の席上、つぎのみなさんが表彰されました。

国保優良家庭表彰

（疾病検閲利用しなかった期間）

〇六年間 三浦モト（相内）

〇四年間 竹谷友三郎（脇元）

〇三年間 成田岩元、小野太郎（磯松）

〇二年間 三浦助夫、吉田良雄、前田慶治、白川真誠（相内）、山田チヨエ（桂川）、竹谷カチ、和嶋たけ、脇元、三橋嘉太郎、亀田勇、相川やえ（十三）

〇一年間 脇元

〇半年間 脇元

〇通算十回以上 鎌田和廣、岡本茂樹、三和悦徳、柏谷肇、佐藤昭憲（相内）、堀引フミオ、竹谷ヨシエ（脇元）、村元イツ、藤田金太郎（磯松）、大沢丈己、豊島美枝（十三）

〇五十六年度、河川海岸環境美化推進表彰団体 太田、相内、十三、桂川、脇元、磯松各地区衛生組織、十三小学校PTA、脇元小学校PTA、ダンブリの会、脇元漁業協同組合婦人部、金木高校相内分校。

〇五十六年度市浦村衛生協力委員、健康づくり推進委員 永年勤続者表彰 成田ヨコ、三上リツ（相内）、堀引澄子（脇元）、相坂幸子（十三）、堀引チセ（脇元）。

〇通算十五回以上 三和久美子（相内）

〇通算十回以上 三和尋子（相内）

〇通算十回以上 三和久美子（相内）

環境保健 アンケート

ごみ処理が頭痛のタネ

【五八・四％ 五百九十七人が回答】

村では、健康を心して生活できる明るく、美しい村づくりを進めようとして、村民生活を向上させるための調査を実施して、昨年七月、環境保健アンケート調査を実施しました。調査は保健委員を通じて毎月調査票を配布し、したがって、全体の五八・四パーセント、五百九十七人が回答を寄せて、それ以上の村民が自分たちの周囲の環境を「自然に保つてあげたい」と答えています。

大きい行政への期待と依存度

豊かな自然には多くの人が肯定的な考えを示しました。場へ連絡、相談する」が三七・七パーセント、環境保健行政についても「まあ良くやっている」が四八・二パーセントで行政に対する期待や依存度の大きさをうかがわせています。

恵まれた自然

多くが肯定的

設問は十六で、それぞれ三十項目から答えを選択する方式をとり、まず周囲の環境については、六二パーセントの人が「住みよい」と答え、海と山と湖に恵れた



ごみの収集量は、1,000トンラインを突破し、都市化の傾向をみせています。

ごみ収集増やして34%

また、ごみ処理に関して、自家処理と収集がほぼ同数となっているが、収集回数を増やして欲しいとの答えが三四・二パーセントもあり、各家庭で大きな心を集めていることがわかりました。

一方、原処理については、水洗化はほとんどなされておらず、大部分がくみ取り式トイレだが、業者が依頼しても数日かかるとの答えが多かったほか、台所などから出る家庭汚水の処理についても一割以上の人が「たれ流し地下浸透処理」と答えるなど、環境整備の遅れを指摘する人が多く、行政側の対応に大きな期待を寄せていることがわかりました。



自分たちの住んでいる所は自分たちの手で。吉野広生納貯組のみなさんの側溝清掃。

美化宣言の村 知っている80%

「美化宣言の村」を知っている人が多く、環境美化に高い関心を示しています。



「美化宣言の村」を知っている人が多く、環境美化に高い関心を示しています。

また、ごみ処理に関して、自家処理と収集がほぼ同数となっているが、収集回数を増やして欲しいとの答えが三四・二パーセントもあり、各家庭で大きな心を集めていることがわかりました。

一方、原処理については、水洗化はほとんどなされておらず、大部分がくみ取り式トイレだが、業者が依頼しても数日かかるとの答えが多かったほか、台所などから出る家庭汚水の処理についても一割以上の人が「たれ流し地下浸透処理」と答えるなど、環境整備の遅れを指摘する人が多く、行政側の対応に大きな期待を寄せていることがわかりました。



自分たちの住んでいる所は自分たちの手で。吉野広生納貯組のみなさんの側溝清掃。

老人パワー 860キロ走破

八王子市の番場さん



老齢をものともせずサンダルばきで860キロを走った番場さん（十三・浜田さん宅前で）

じよっぱり精神が支え

番場さんが十三まで自転車旅行しようと思いついたのは、七十歳に到達した昨年、年をとるにつれて衰えるばかりの体力に自信をなくし、心までが老朽化していくのを覚え、体力アップにサイクリングを選

びました。しかし、八百六十キロ走破となるとそれなりのトレーニングが必要で、これまで八王子市を起点に埼玉県美芝木、山梨県笹子峠など変化のあるコースをこなし、自信をつけました。

また二十六年前に亡くなった妻のキミエさんは、十二地

区

古希を迎え自分の体力に挑戦してみようと、八王子市一三間約八百六十キロを自転車走破したがい

話題の人は十三地区に親類があり、姉ヶ沢町舞戸出身で現在東京・八王子に住む番場幸吉さん(74)です。

八王子市が家族や老人クラブの人達に見送られて、八王子市の自宅を出発したのは五月七日午前五時。国道四号線を北上し、初日はあいいくの雨に見舞われる悪天候でしたが、栃木県黒磯市まで快調に百九十一キロを走り、意気さ

か九十一キロを見せました。二日目を降はマイペースに

ペダルを踏み、宮城県白石市から岩手県北上市へと一〇七号線を通り続け、秋田県大湯村を経て目的地の十三・浜田さん宅に着いたのは十一日午後四時でした。五日間で八百六十三キロ走ったことになり、一日平均走行距離は百七十二キロ。若者並みの走りっぷりに浜田さんの家族はじめ親類の人達を驚ろかしました。

途中は急坂もなく苦しいと思わなかったが、幹線道路では交通量が多く、一歩郊外へ出れば猛スピードで通り過ぎる若者の自動車には恐れをなしたという。

八百六十三キロの旅を終えた番場さんは「無事走破できてはつとした。じよっぱりの精神が大支えとなり、年寄りでもやればできることを証明できてこんなに嬉しいことはありません」と、五日間をふり返りました。

ペダル踏み踏み 5日間で十三へ

番場さんは目下、浜田さん宅に滞在中で山菜取りや釣りを楽しんでいま

幼児を事故から守ろう

□十三保育所に白鳥クラブ

幼児を交通事故から守ろうと、このほど十三保育所に「白鳥クラブ」が結成されました。設立の総会には太田金木警察署長、神島金木地区安協事務局長など来賓多数出席して開かれました。

（事業計画）

先ず発起人を代表して煤田玲美さんが「交通事故は毎日のように発生しています。幼いいのちを事故から守るため、安全教育がたいせつです」と、

加。交通安全教育がたいせつです」と、

加。交通安全教育がたいせつです」と、

加。交通安全教育がたいせつです」と、

加。交通安全教育がたいせつです」と、

加。交通安全教育がたいせつです」と、

加。交通安全教育がたいせつです」と、

加。交通安全教育がたいせつです」と、

加。交通安全教育がたいせつです」と、

加。交通安全教育がたいせつです」と、

加。交通安全教育がたいせつです」と、

加。交通安全教育がたいせつです」と、

加。交通安全教育がたいせつです」と、

加。交通安全教育がたいせつです」と、

加。交通安全教育がたいせつです」と、

加。交通安全教育がたいせつです」と、



設立総会であいさつする煤田全長



藤崎町の飛龍松と兄弟分だったという臥龍松
(大正12年に撮影)

十三山漫歩と奇 (2)

興と奇縁花

町民の手で再建

前述のように、湊迎寺は由緒ある古刹の後身と言われていますが、天災に遭遇するかまたは、兵火に見舞われて廃寺となっていたも

のようです。

「十三郎町中者ども寺も遠路に御座候間、小寺成り」と建立仕りたき由、云々と同寺縁起にあることは雄弁にこの事実を物話っています。「遠路に」とあります

が、それまで何処の寺の横徒であったものでしょうかはつきりしませんが、おそらく弘前の浄土宗のお寺であったものでしょう。

そこで、惣旦那衆が何回も奇合をして再建の相談一決し、一字を建立した記事もありますから、湊迎寺は

実に十三郎町民の手によって再建されたということになるわけです。

天龍を迎えて開山

惣代の人々は直ちに津軽浄土宗の本山である弘前の賢願寺を訪問して、住職の

無角和尚に面接し、住持のあつ旋をお願い申し上げたところ、早速承諾してくれ、天龍和尚を選んで初代の住職に任命して下さいました。その上、山号(十三山)や寺号(湊迎寺)まで頂戴することが出来ました。時に寛永二乙五年(西紀一六二五、去今三五八前)のことです。

初代天龍は、秋田生まれの方で入道の高い名僧であったものと思われまふ。當時、弘前賢願寺に寄宿して

弘法の修業に励んでいた方らしいです。十三山湊迎寺の初代住職として十三町民に迎えられたわけです。法号を空運社吞摩上人天龍大和尚といひます。

今はなき臥龍松

七・八十歳の十三育ちなら誰でも記憶に新たな名物の一つに湊迎寺の臥龍松というのを御存じでしょう。今は枯れて見られなくなり、うたな叔昔の念にかられます。南部藤崎町の飛龍松と兄弟分でしたが、この松も臥龍松に先立ってなくなり

ました。湊迎寺の黒松は、小さい築山の腹から伸び出し、庭園の過半を占領し、さすがに十三湊の汐風のためか、上に伸びず南枝七間余、東枝五間以上、根廻りは八尺余の太木で、ちようど龍がはっているような形をしていたので、臥龍松と名づけられました。

その外、真言宗であったと思われる石碑もあつた記憶ですが、今は見当たらないようです。

正徳年間に植樹

臥龍松はいつたい誰が植えたものでしょうか?大正二年頃の記録によりますと、樹齡二百年を超算をしますと、正徳年間(西紀一七一〇—一七二五)になります。そのあたりの住職を調べて見ますと、六世の軍阿和尙、七世の生阿無観頌運和尙の時代に当たりますので、このお二人のいずれかが庭園を造つた折に植えられたものだと思います。何しろ残念なことで、諸行無常の風の冷たさが感じられます。

さの部 18

津軽のこゝろ

災難はどこにいてもおぼつてくるといふ意。

買ししかか陸上する 小賢しく走りまわるとは、かえって失敗することが多いといふ意。

先脚をア馬鹿勝つて油断するなという戒め。

酒に呑まれる 泥酔する。

猿木がら落ちる 猿のような木のぼり上手で木から落ちることもある。

荒で水波む 徒勞の意。

浪に木登り教えるナ 要らぬ干渉をするという意。

騒ぐ鳥も団子ひとつ 騒がぬ鳥も団子ひとつ 泣いても笑つても一生。結局、騒がぬ方がかこい。

触らぬ神に祟りなし 関係さえないれば災いをうけることもない。

産婦の帯しなり 服装のだらしないこと。妊婦のようだというたとえ。

三文の男や百文の女と 女としては立派でも価値のない男と同じであるという。男尊女卑の思想。

■六月定例村議会

収入役に山田さんを再任

一般 会計 四千六百万円追加補正

定例村議会は、六月十八日から二十一日まで開かれ、今年度一般会計補正予算案など十議案を原案どおり可決したほか、収入役に山田勝明さん(54)を再任しました。

一般会計補正予算は四千六百万円と盛り込まれたのは、十三歳出のおもなものは、三十三湖・中島遊歩道橋架設工事費三千五百万円のほか、十三地区収納庫新築工事三百万円などです。



山田収入役

可決された議案はつぎのとおりです。

□昭和五十七年度市浦村一

般会計補正予算

□昭和五十七年度市浦村簡易水道事業特別会計補正予算(百五十万円減額補正)

□昭和五十七年度内財産区特別会計補正予算(二百十九万五千円追加補正)

□昭和五十七年度市浦村臨元財産区特別会計補正予算(六千五百五十円追加補正)

□昭和五十七年度市浦村三財産区特別会計補正予算(三百九十一万円追加補正)

□村営による土地改良事業の施行について(災害防止施設事業)果単ため池整備事業

□村道路線の認定について(大沼一路線、太田二路線)

□市浦村高齢者等肉牛飼育事業基金条例の一部改正につ

いて

□市浦村コミュニティセンターの設置及び管理に関する条例の制定について

□老人生きがいセンター建築工事の請負契約について(請負金額三千九百三十万円)

□契約の相手・欄巴組鉄工所青森支店)

山田収入役の略歴

昭和十七年四月、十三村役場書記を振り出しに、三十六年四月任民係長、三十八年十月任民生係長、四十年四月任総務課長となり、四十六年教育次長、四十八年十月収入役に就任。今回が三期目。

□東北郵政局

～はがきで選ぶ～

東北観光地60景募集中

・応募方法 ハガキに観光地名1箇所と、あなたのお名前、住所、年齢を記入の上お出しください。

なお、できれば30字位でまとめた推薦のこたばをお願いします。

・あて先 〒980 仙台市一番町一丁目1-34 東北郵政局内 はがきで選ぶ東北観光地60景係

・募集期間 昭和57年6月15日～昭和57年7月23日(当日消印有効)

・賞 「60景」に投票された方の中から、抽選で300名様に下記の景品を贈ります。

(1)東北郵政局オリジナル 「切手帳Ⅰ」……………50名様

(2) 「切手帳Ⅱ」……………50名様

(3) 「切手帳日本の歌シリーズ」……………150名様

(4)東北郵政局オリジナル 「ネクタイピン・カフスセット」……………50名様

なお、推薦の言葉をお書きくださった方には、上記とは別に再抽選の上、300名様に粗品を贈ります。

・発表 選定された「60景」は57年8月上旬に郵便局の窓口に掲示するほか、報道機関に発表します。

なお、入賞者の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。

・主催 東北郵政局

広報しうら準特選入賞

□青森県広報コンクール

昭和五十六年度青森県広報コンクールと広報功労者の表彰式は、五月三十一日(八戸市)で行われ、準特選入賞に藤や

ました。対象になった広報紙は、昨年六月号(二六六号)です

が「特集や企画面で優れており、内容が豊かである」という審査員の評です。

同コンクールの入賞は四回目。準特選は初めてです。

なお、この日本村広報担当の柔野邦夫さん(60)が、準特選に選ばれたことを受けて表彰を受けました。



表彰を受ける柔野さん

「この日本村広報担当の柔野邦夫さん(60)が、準特選に選ばれたことを受けて表彰を受けました。」

交通死亡事故ゼロ

300日達成

(6月16日現在)

昭和56年8月20日午後7時28分ごろ、脇元地区の国道で老人(79)が乗用車にはねられ即死した事故以来の記録です。

1日1日の積み重ねをたいせつにしよう。



どっしりと厚い 歴史に囲まれて

広報しろら縮刷版第一巻
がいよいよ8月に発刊され
ます。村では貴重なこの本
を毎戸に贈っていただけ
のように、3,500円というお
求めやすい価格にしました。

内容は昭和32年8月創刊
号から175までを収録し
ました。

申込みは7月15日まで

頒布価格 3,500円

くわいことは金庫室広
報係へ。

広報縮刷版予約募集中

お知らせ

□県青少年婦人対策室で 私の主張・私の提言募集

県では、婦人問題についての皆さんの
意見を募集します。

○意見内容

1. 「私が考える男女平等」
一家庭生活からみた場合、職場生活
からみた場合、学校生活からみた
場合一

2. 「私にとっての婦人問題」
以上の中から1題選んで400字詰原稿
用紙(従書)5枚以内にまとめ、住所・
電話番号・氏名・年齢・職業(学生の場合
は学年)を別記の上、県青少年婦人室
あて送付して下さい。

○応募資格 15歳以上の女子

○応募期間 昭和57年7月1日～8月
末日

○選考 入選した方には記念品を贈り、
本年11月に開かれる「婦人のつどい」
で発表していただきます。なお作品
はお返しいたしません。

○送付先 (お問い合わせ先)
青森県生活福祉部青少年婦人室
(電話0177-22-1111、内線2219)

□交通災害共済 途中からでも加入できます

村では、村民が交通事故に遭ったとき
のために「交通災害共済」へ加入を勧め
ています。途中加入もできますので、ご
家族でどうぞ。

▷会 費 1人350円

▷期 間 58年3月31日まで

▷見舞金 15,000円～150,000円

▷月額金 800,000円

▷申込先 役場窓口又は各出張所へ。

□犬の管理は正しく 放し飼いはやめましょう

かわいがって飼っている犬でも時によ
っては人をかんだり、庭園や畑を荒した
ります。

飼いは正しい管理をしてほしいもの
です。

▷犬の放し飼いは絶対にやめる。つなぐ
とか、おりに収容するとか口輪をつけ
るようにする。

▷犬小屋のふきんの衛生に気をつける。

▷飼ひ犬がいなくなったら捨てないで、
保健所で引きとってもらう。

▷門戸など見やすい場所に㊦と表示する。

▷犬が人をかんだ場合飼ひ主は、すぐ保
健所に届け出て指示をうけましょう。

□交通事故相談 いっさい無料です

日常茶飯事のように交通事故が発生し
ています。

▼とたび事故が起こると、被害者はも
ちろん、その家族、時には加害者も苦境
に追いこまれます。

日本損害協会青森自動車保険請求相談
センターでは、こうした交通事故でお困
りのかたたちのために、いっさい無料で
自賠責保険、任意保険等について相談に
応じます。

□ところ 青森市長島2丁目10-7ヤ
マビル8階(自賠責調査事務所と
なり)

□相談時間 平日…午前九時から午後
4時30分まで

□その他 お急ぎの時や簡単な相談は
電話で応じます。

電話 (0177) 22-1025・77-4391

ひとこと

親子の深い つながりを



桂川 山田蓮二(24)

日本人は欧米人に比べて子
どもの教育に無関心だとい
れます。それは子どもも勉強
をみてやるのが少ないとい
うことでもわかりやすいこ
とでもわかりやすいこと
かかわらず、年をとってか
ら子どもに頼ることが多いとい
う。また、子どもと一緒にス
ポーツをするとか、旅行す
りとかも少ないそうです。そ
うなことから、親子の間の
結びつきが薄れるのも当然
のことです。
「意志」とが違
うように、子どもを愛するこ
とと、子どもをかわいがるこ
とは全く別のことだと思われ
ます。かわいがるということ
は甘えであり、おのづから眼
界があると思います。また、
親子の関係はその時々か
りの憎しみはあっても、生き
るというこに強い意志と感動
をもって親子と子どもの深いつ
ながりをもってほしいのです。

第6回商工会 珠算検定合格者



二級以上の合格者はゼロ

第六十一回商工会珠算検定試験は六月五日、村内各小学校を会場にいっせに行われました。受験者総数は五十五人でしたが、合格者は二十九人で、合格率は五二・七パーセントと振りましたが、二級以上の合格者はゼロでした。

▽三級 三浦美奈子(辻分)

▽四級 山田美紀(脇元小) 青山由美子(太田小) 古川芳久、古川正彦(太田小) 後藤惠(脇元小)

▽五級 本荘恵理香(十三) 小 太田美奈子、新岡ツカ子、黒川えり(脇元小) 植野幸司(太田小)

▽六級 豊島夏子(十三小) 竹谷洋子、成田裕美、黒川公美子(脇元小) 木村文昭、工藤秀人(太田小)

▽八級 柳谷十和(十三小) 萬谷静子(脇元小) 今井智之、白川一貴(辻分珠算塾) 成田寿美枝、山本貴一、長利豪美、下澤卓司(太田小)

▽九級 本荘千登世(十三小)

健康への みち

▶ 3 ▶

これまでの最高400人
五十七年度第一回目の総合検診の利用者は、二日間で四百四十四名とこれまでの最高でした。なかでも相内地区の利用者が多いことが特徴です。成人、老人別では、例年とは逆に成人の利用者が圧倒的に多く、全体の約七割を占めています。

□総合検診

有所見者については、老人利用者の中で占める割合が多く、何らかの治療を受けている人が検診を利用しているともいえます。内容としては、高血圧症が圧倒的に多く、次いで心疾患となつています。また、

健康を確認できるよい機会

保健婦 佐藤 明 美

高血圧症は海岸部に多く見られ、特に磯松地区が目立っています。

健康へのパスポート

四百四十四名の中で、はじめて利用した人が何人いるかを成人、老人別に表わしたのが下表です。全体の三割がはじめての人で、その中で「健康」であることを確認した人が七割以上を占めました。検診というのは、病気の早期発見、早期治療が第一の目的です。

□総合検診を初めて利用した人の状況

| 区分 | はじめての利用者(人) | はじめた人の割合(%) | 異常のなかった人 | 全体の異常のなかった人 |
|----|-------------|-----------------|-----------|-------------|
| 成人 | 114 | 114 / 300 (38%) | 90 (79%) | 218 (73%) |
| 老人 | 26 | 26 / 144 (18%) | 13 (50%) | 64 (44%) |
| 全体 | 140 | 140 / 444 (32%) | 103 (74%) | 282 (64%) |

検診で異常が発見されても病院での精密検査で、異常がないとなれば、これに越したことはありません。検診は「健康への道」を歩むことのできる唯一のパスポートともいえるでしょう。

こんにはち(赤ちゃん)

古川さん 長女(十三)
千尋ちゃん(11ヵ月)
「十三の砂山まつり」には、
ねじりはちまきでおみこし
でめかついでみようかなア...



戸籍の窓



お誕生

宮本 愛子(相内) 健治
三和かすみ(相内) 悦穂
秋田谷香奈子(桂川) 義照
岡本 真代(相内) 隆雄
外崎 和昭(脇元) 正人



ご結婚

(近藤 秀生(十三) 野呂志保子(木造)
(成田 深(柏) 久保田久美子(十三)

おくやみ

佐々木真二(車力) 鳴海博喜(相内) 工藤 博子(前) 奈良つか子(太田) 三上 善彦(脇元) 細谷美智子(蓬田) 澤崎利一(岐阜) 橋引 克子(脇元) 山口 良雄(青森) 橋引富士子(脇元) 佐藤 弘美(秋田) 石岡美香子(脇元) 田名達賢治(青森) 加福 裕子(十三) 三上 謙一(脇元) 奥本 恵美(埼玉) 加茂 光年(北海道) 本荘ゆかり(十三)

萬西キミオ(脇元) 82歳
高田 絹江(小泊) 39歳